

# 本学創立111周年 式典

## 日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼人 中原 泉  
編集人  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎ 025 (267) 1500



MNUMS  
Mongolian National University of Medical Sciences  
1942  
モンゴル国立医科大学の校章

### 四百余名が参列

本学の創立一一一周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。モンゴル国立医科大学のバザール・アマルサイハン前歯学部長への名誉博士号授与式もあわせて行われた。卒業五十年・二十五年創立記念式典特別参列制度(ジユビリー5025)から多数の校友が参列した。午後からは創立記念祝賀会が、近くのグランドパレスホテルで開催された。(関連記事二・三面)

日本歯科大学創立一一一周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。モンゴル国立医科大学のバザール・アマルサイハン前歯学部長への名誉博士号授与式もあわせて行われた。卒業五十年・二十五年創立記念式典特別参列制度(ジユビリー5025)から多数の校友が参列した。午後からは創立記念祝賀会が、近くのグランドパレスホテルで開催された。(関連記事二・三面)



### 「歯の細胞バンク」に改称

本学では、二〇一五年に歯科大学では最初となる「歯髄細胞バンク」を設立した。このたび、患者さんや一般の方々により親しめるよう、「歯の細胞バンク」と名称を変更した。また名称変更による新しいロゴマークを制定した。

日本歯科大学  
セントラルクリニック



新しいロゴマーク

員など四百余名が参列した。定刻の午前十時三十分、高橋孝幸庶務部長が開式を宣した。築土神社の神職により神事が執り行われ、本学の一世以上の沿革と、世界最大の歯科大学に発展したことが祝詞の中で朗々と奏上された。中原泉理事長・学長が神前に進み出て、玉串を奉奠すると参列者は二礼二拍手一礼をもって同拝した。参列者を代表して、中原貴、沼部幸博、藤井一維、湯浅太郎の各理事、近藤勝洪校友会会長がおの神前に玉串を捧げた。

撒餞、昇神の神事を終え、神職が退場、壇上を整備したのち、挨拶に立った中原理事長・学長は、創立一一一周年記念式典に立ち会えた喜びを語った。式辞の中で、ここ数年の間に創立者や本学に関する史実が明らか

私(中原)は十二年前の平成十七年(二〇〇五)に、モンゴル大学(日本歯科大学人類学共同研究プロジェクト)を組織し、東京大学の矯正学、新潟校の解剖学の先生方と一緒に、モンゴルのウランバートルに行った。そのときは、モンゴル



アマルサイハン前歯学部長(右)に、名誉博士号の学位記が手渡された

### モンゴル歯科界の第一人者

学創立一一〇周年、そして創立者中原市五郎先生生誕一五〇年という記念すべき年だった。一一〇周年記念事業も残すところ記念誌の刊行をもって最終段階となる。一一〇周年記念誌と、校歌・応援歌・寮歌を収録したCD、そして記念品を問もなく校友の先生方のお手元に届けることができることになった。

一一〇周年記念事業に對し、ご理解と協力をいただいたことに心から感謝申し上げたい。本日創立一一一周年の記念式典にあたるが、一一一年は皇寿という。皇帝の皇、エンペラーで、まさに「昨年日本歯科大学に日本の歯科医学教育を

健康科学大学という名称だったが、モンゴル唯一の歯学部である同大学歯学部の歯学部長を、三十八歳のアマルサイハン博士が務めていた。当時はモンゴル国がかわっていき時代で、新進のアマルが先頭に立って歯学部を牽引し、現在の近代

### 平成28年度ベストレクチャー賞

- 【生命歯学部】
  - 1位 発生と再生/2年前期 発生・再生医学講座講師 井出吉昭
  - 2位 歯の解剖/1年後期 解剖学第一講座准教授 春原正隆
  - 3位 生体物質の化学/1年後期 化学准教授 柴田 潔
- 【新潟生命歯学部】
  - 1位 顎口腔機能診断学/3年後期 歯科補綴学第一講座准教授 水橋 史
  - 2位 小児歯科学/4年前期 小児歯科講師 三瓶伸也
  - 3位 生命の連続性と遺伝子/2年前期 生物学准教授 岡 俊哉

平成29年6月1日 本学



表彰を受ける永年勤続者たち

次いで名誉博士号授与式に移った。中原学長がモンゴル国立医科大学教授バザール・アマルサイハン先生を紹介し、学長より、日本歯科大学第二十二号の名誉博士号が授与された。

「このたびは私どもは永年勤続表彰をうけ、身に余る光栄に感激しています。永年勤続といっても採用以来年齢を重ねて、気がつけば二十年三十年の年月がたつていた。永年勤続を喜びと感ずる一方、表彰状をいただくに値するだけの功績を残してきたか、と内心忸怩たる思いがする。今回の永年勤続の表彰を機会に、新鮮な気持ちで仕事に励み、日本歯科大学の発展に尽くしたい。またたく

的な歯学部にも発展させた。同年八月には再度ウランバートルを訪問し、姉妹校の提携をした。モンゴル平原のゲルの中で、私はアマルたちと一夜を歓談して過ごすという、たいへん得難い体験をするなど、本当に仲のよい友人である。現在アマルはモンゴル国立医科大学歯学部の教授であり、同大学の副学長、モンゴル歯科医師会会長の務めをしているが、厚生大臣の顧問という立場でもある。日本の厚生労働大臣と、両国の医学について話し合うということ。アマルはモンゴルの医学界、歯学界の第一人者であり、将来はモンゴルの厚生大臣に就任するだろうと囁かれている。(中原泉)

が登壇し、中原理事長から代表者に表彰状が手渡された。式典参列者から拍手が贈られるなか、表彰者を代表して遠藤敏哉教授(新潟生命歯学部歯科矯正学講座)が、「このたびは私どもは永年勤続表彰をうけ、身に余る光栄に感激しています。永年勤続といっても採用以来年齢を重ねて、気がつけば二十年三十年の年月がたつていた。永年勤続を喜びと感ずる一方、表彰状をいただくに値するだけの功績を残してきたか、と内心忸怩たる思いがする。今回の永年勤続の表彰を機会に、新鮮な気持ちで仕事に励み、日本歯科大学の発展に尽くしたい。またたく

中原 泉 理事長・学長 式辞



日本歯科大学創立111周年記念式典

◆史実の発掘◆

日本歯科大学は今年創立一一一周年を迎えた。教職員、学生、校友、そしてジュビリー5025の先生方と一緒に、一一一周年の記念式典に立ち会えることを私はたいへん喜んでい

立一周年を迎えた。教職員、学生、校友、そしてジュビリー5025の先生方と一緒に、一一一周年の記念式典に立ち会えることを私はたいへん喜んでい

◆学校の創設◆

そして明治三十九年に歯科医師法が公布された。しかし、肝腎の正規の歯科医学校は一枚もなかった。これを憂えた中原市五郎先生は、吉岡先生に「学校というの

たつて、鷺山彌生という女性の患者さんが通ってくるようになった。彼女は明治三十年に、麹町区飯田町四丁目九番地に東京至誠医院という内科診療所を開業した。現在の飯田橋のグランドパレスの向い側のあたりであ

中原理事長…様々な史実が明らかにになり、歯科界の歴史に新たなページが書き加えられた

岡彌生先生からしばしば多難な学校経営の愚痴を聞き、彼女に大いに刺激された私は思っている

この二人の医院は目と鼻の先で、九段下を曲ると五分で着く、そういう距離だった。鷺山彌生先生は日本で二十二人目の女医さんで、結婚して姓が吉岡彌生となった。これでもうお分かりの方は少なくないと思う。明治三十三年に彼女はこの地に、私立東京女医学校を創立した。中原市五郎先生は診療中、三十歳の吉

たのだらう、彼女は「学校くらい骨の折れるものはござりませぬ」というような本音を吐露されたそう。それでも中原先生は、「その骨の折れることを、私もやってみたいと思う」と告げたのだ

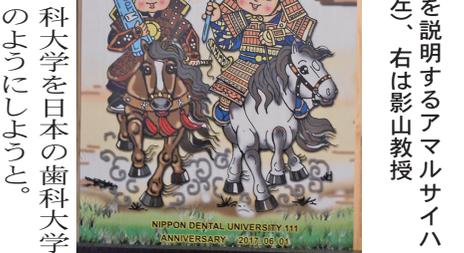
である。現在、「日本歯科大学発祥の地」の記念碑がある大手町一丁目一番地の交差点のあたりである。吉岡先生は、明治三十六年には、東京女医学校を牛込区市谷河田町に移した。現在の東京女子医科大学である。

私がこの二人の交流を知ったのは、ごく最近で、昭和九年と十一年に出された本学の機関誌の中に掲載されていた。創立一一一周年の記念式典

教育を導入し、歯学部のみならず医学部、また医療系のシステムを立ち上げる事ができた。モンゴル国における歯科部門の強化と発展に、多大な貢献をして下さった中原学長に深甚なる感謝を表したい。また感謝の気持ちを込め、記念品を贈呈したい。日本とモンゴルの武者姿を描いた。中原先生はトゥースブラシ、私はトゥースペーストを持っていく。この絵のように、両国がともにアジアの歯科の発展に寄与していけることを祈っている。



記念品の絵画を説明するアマルサイハン名誉博士(左)、右は影山教授



両国の騎馬武者の絵画

私若しくは、日本歯科大学の理事長・学長中原先生たちにお会いすることができた。中原学長と多くの日本人の方々のおかげで、私の夢は叶った。日本式の歯科

アジアの歯科界 発展のために B・アマルサイハン (謝辞) 本日の記念式典で名誉博士号をいただいたことは、大変な名誉で

思い起こせば一九九七年、私は初めてのモンゴル人歯科大学院生として日本に留学した。そのときに私は夢をもった。いつの日か、モンゴルの歯

ある。思い起こせば一九九七年、私は初めてのモンゴル人歯科大学院生として日本に留学した。そのときに私は夢をもった。いつの日か、モンゴルの歯

ある。思い起こせば一九九七年、私は初めてのモンゴル人歯科大学院生として日本に留学した。そのときに私は夢をもった。いつの日か、モンゴルの歯

日本歯科大学名誉博士号授与者

Table listing honorary doctorates awarded by Nippon Dental University from 1964 to 2017, including names and countries of origin.

永年勤続表彰

- List of long-term service award recipients, including names and departments such as the dental clinic and administrative services.



1934年7月 新落成記念式



八十三年前の昭和九年(一九三四)七月、麹町区富士見町の日本歯科大学に新しい附属病院(病院)が竣工した。新進の建築家山口文象の設計により落成した新病院は、昭和を代表するモダニズム建築と絶賛された。飯田橋駅前現在の附属病院が開院して移転し、昭和六十二年(一九八七)に解体されるまでの五十余年の間に、一万余りの学生が登院した。写真は、七月一日に開催された竣工記念式典で、右端は式辞を述べる中原市五郎校長。左の来賓席に座るのは、右から二人目が東京高等歯科の島峰徹校長、三人目の和服姿が東京女子医専の吉岡彌生校長、左端が日大専門部歯科の佐藤運雄校長。

# 村上一枝先生「山上の光賞」

## NPO・ボランティア部門で受賞

本学五十四回卒で名誉博士の村上一枝先生は、このほど「山上の光賞」を受賞した。授賞式は六



健康・医療分野等で活躍するシニアを顕彰する「山上の光賞」第3回授賞式は、パレスホテルで催された。写真中央は、村上先生、右は中原学長

月八日に東京パレスホテルで行われ、中原泉学長が参列した。「山上の光賞」は、日

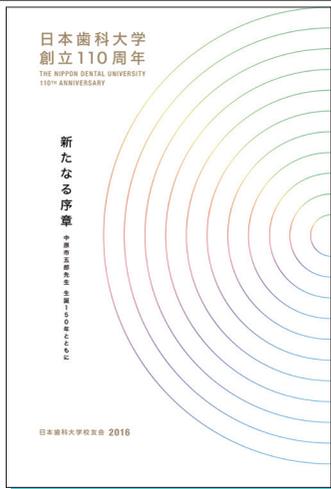
本の広範な健康・医療分野において活躍し、よりよい社会を築くことに貢献している七十五歳以上の功労者を顕彰するプログラムである。二〇一五年に設けられ、本年度三回目となる同賞は、日本病院会、全日本病院協会、地域医療振興協会、セルジーン株式会社が共催している。今回は鴨井久一名誉教授が、村上先生の推薦者となった。

NPO・ボランティア部門で受賞した村上先生は、一九八九年に西アフリカで活動する日本ボランティア団体に参加し、

現在は「カラ西アフリカ農村自立協力会」の代表を務めている。村上先生はマリ共和国で、独自の支援活動を開始した。それは、「人に頼らないで、自分の力で健康に生きていく」をテーマとする地域密着型の支援である。井戸掘りからはじまり、栄養源となる野菜栽培、植林活動、教育の普及や女性に適した技術の指導を行い、女性の収入獲得を実践した。マリ共和国では、村上先生らの活動により、女性識字教師、助産師や女性保健普及員が誕生した。



記念式典には特別参列制度(ジュビリー5025)により56回卒の37名、81回卒の東京校20名、新潟校27名の84名が参列した。(上写真は56回卒、中は81回卒東京校、下は81回卒新潟校の先生方)



潇洒なデザインの110周年記念誌



111周年を祝う! 乾杯の発声は近藤校友会長

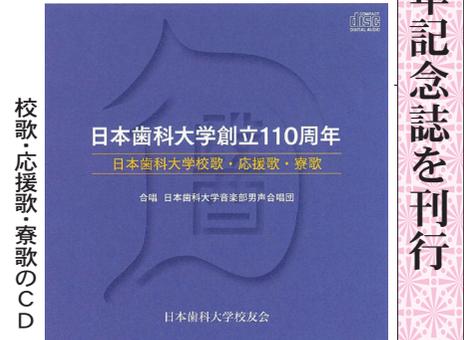
ワン・ワン・ワン 創立一一一周年記念式典祝賀会は、午後一時よりグランドパレスホテルで開催された。まず中原泉理事長・学長が挨拶に立ち、続いて近藤勝洪校友会会長は、母校の益々の発展と参会者の健勝を祈念すると述べ、乾杯の言葉とした。次いで名誉会員の朝比奈敏行先生(三十七回卒)と、光安一夫先生(四十七回卒)が紹介された。



▽25回卒の学生時代の写真アルバムを手渡す町田裕子先生



校友会 本学創立110周年記念誌を刊行 日本歯科大学校友会では、五月に『日本歯科大学創立110周年―新たな序章・中原市五郎先生生誕150周年とともに』を刊行し、校友会員や関係各機関に配布した。同書は校友会記念誌編集委員会(倉治隆委員長)が、一昨年より編集事業に着手し、このたび上梓した。本学創立一〇〇周年以降の十年間のトピックス、本学の現況、都道府県・学内校友会の活動報告、昨年挙行された創立一一〇周年記念全国校友大会の記事や写真などを掲載した。A4判一六〇ページで、純白の表紙に刻まれた十一本の半円は、本学一一〇年の軌跡をモチーフとしている。



中原理事長・学長の挨拶



校友会名誉会員の朝比奈(右)、光安両先生



△級友たちとの歓談の輪が広がる▽



△『考証 中原市五郎史伝』を紹介する藤井重壽校友会副会長(右) <閉会の辞を述べる沼部教授

# 「Foreign Affairs」本学を紹介 世界で最も権威ある米国国際誌

本学では、このほどアメリカの国際誌『フォーリン・アフェアーズ』から取材を受けた。三月一日、新潟生命歯学部が香港支局のF・パシエコ記者が訪れ、中原泉学長とIUSOHセクレタリーの影山幾男教授(新潟生命歯学部解剖学第一講座)がインタビューに応じた。本学を紹介する記事は、今夏発行の同英文誌に掲載された。米人識者によれば、一ページでも同誌に掲載されれば、それだけで特筆に値するという。掲載記事の和訳全文は次の通り。

## 世界最大の歯科大学唯一の生命歯学部

### 医学の先駆者に とどまらず

日本歯科大学は一九〇七年、中原市五郎博士により創設され、再生医療の分野における先駆者としての名声を確立してきた。日本歯科大学は二〇一六年、創立一一〇周年を祝い、医学の最大の課題すなわち、いかに人体の各部を再生するかという課題に挑むことで、次の

世紀に目を向けている。六十五歳以上の人の数が、二〇二五年までには人口の二十五パーセントを超えると思われている。なかで、日本では老年医学の重要性が増してきている。その人口統計上

の課題より前に、高齢者に対する歯科治療数、特に歯周病とむし歯の治療数は毎年増加してきている。二年前、日本歯科大学は世界初の歯の細胞バンクを設立した。様々な

疾病の治療のために、乳歯由来の幹細胞を活用することに大きな可能性があると、私たちは考えている。各国は人口統計の急速な変化に直面しており、再生医療は生活の質を維持するために大きな役割を果たすであろう」と中原泉学長は説明した。

日本歯科大学は日本最大の歯科大学で、二千人を超える学生、千人を超える

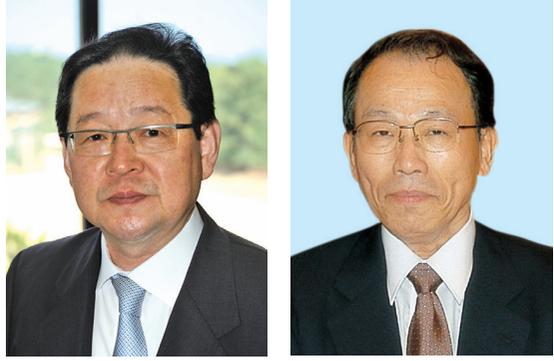
教職員を有し、卒業生は二十万人を超える。また、ミシガン大学、ペンシルベニア大学、メリーランド大学、パリ大学、タイのマヒドン大学等との提携など、いくつもの国際的な連携を築いている。しかし、中原は、単に医学の先駆者であることにとどまらず、より大きな使命をも見据えている。日本歯科大学は世界最大の歯科大学であり、

また再生医療の分野を展覧させている中で、社会に対する自らの責務を認識している。日本歯科大学は東京に多摩クリニクスを開設した。そこは、高齢者や障害を持つ患者の口腔衛生を向上させるために造られた、日本で唯一の口腔リハビリテーションクリニックである。日本歯科大学はまた、歯科治療を受けるすべての人々が治療を受けられるように、新潟に訪問歯科診療科を開設している。

この先駆的な一歩が、歯科界自体においても患者の間でも、歯科に対する意識を根本的に変えることを望んでいる。(日本歯科大学 生命歯学部・新潟生命歯学部)

骨壊死」の略称。現在、骨粗鬆症の治療に用いられるビスフォスフォネート製剤や、がん治療薬が引き起こす顎骨壊死が問題となっている。それらへの対応のためMRONJ外来を設置した。院長は、口腔外科学講座の小林英三郎講師。

## 校友会会長に近藤先生再任 歯学会会長に渡邊教授新任



渡邊歯学会会長

近藤校友会会長

日本歯科大学校友会は、去る五月二十七日に総会を開催し、近藤勝洪現会長を再任した。近藤会長は、昭和四十年本学卒業(第五十四回卒)。平成二十三年(二〇一一)から校友会長を務める。

日本歯科大学歯学会は、六月三日に総会を開催し、新潟生命歯学部歯科補綴学第二講座の渡邊文彦教授を会長に選任した。渡邊新会長は、昭和五十二年本学卒業(第六十六回卒)。同年六月、新潟歯学部歯科補綴学教室第二講座助手、講師、助教授を経て、平成十一年(一九九九)教授に就任。歯学会では、理事、副会長を歴任した。

坂元(総診) 非常勤歯科医師  
日本顎咬合学会の3賞を受賞

附属病院総合診療科の坂元麻衣子非常勤歯科医師は、去る六月十日、東京国際フォーラムで開催された第三十五回日本顎咬合学会学術大会・総会で報告した「咀嚼と発音障害に対して機能回復を行った症例」。

カポデンタル賞は第三十五回日本顎咬合学会学術大会・総会で報告した「咬合支持域を喪失した患者のフルマウスリハビテーション症例」。

論文賞は「咀嚼と発音障害に対して機能回復を行った症例」で、二〇一六年十月発行の日本顎咬合学会誌第三十六巻三号に掲載された。

生命歯学のパイオニア

日本歯科大学は、校名と学部名を「生命歯学」という言葉が入る名前に変更した。歯科医学は生命体を学ぶ学問であり、歯科医療は生命体にかか

新潟病院にMRONJ外来

本学では七月一日付で、新潟病院にMRONJ外来を開設した。MRONJは、Medication-related ONJ(Osteonecrosis of the Jaw)＝「薬剤関連顎

辞令

講師 澤田 幸作  
新潟病院口腔外科併任を命ずる(新潟生命歯学部先端研究センター・顎顔面骨臨床応用学)

講師 小林英三郎  
新潟病院口腔外科併任を命ずる(新潟生命歯学部口腔外科学講座)

MRONJ外来医長を命ずる

平成二十九年七月一日 本学

掲載されたForeign Affairs 96(4) July/August 2017の表紙

### マヒドン大学 ◇レジデンスを迎えて◇

小児歯科研修を終えて、関本教授たちと

修中の女性歯科医師である。日本での小児歯科診療の現状や診療内容に非常に興味を持ち、熱心に研修に臨んだ。タイでは、未だ乳歯列期における齲蝕罹患率が高いため、歯内療法や乳歯冠修復処置を行うことが多く、保険処置はほとんど行われないとのことで、クラウンループや可撤保装置に関心を抱き、その製作にも熱心に参加した。

小児歯科の研修以外では、日本の文化にも興味があり、休日には他県にまで足を延ばし、神社巡りを楽しんだ。また、タイでは数年前から日本食がブームで日本食レストランが数多くできており、彼女達も日本食に関して一通りの知識があった。しかし、実際に新潟に来て味わった日本食は、タイで食していたものよりもはるかに美味いらしく、毎日の食事がとても幸せだと話していた。

研修終了後、修了証の授与式が行われた。最終日のお昼には日本食の調理実習(たこ焼き)も行い、最後の交流を楽しんだ。彼女たちにとって、新潟での小児歯科研修はよい思い出になったことと思う。

(新潟生命歯学部小児歯科講座 黒木淳子)

新潟・医の博物館で取材に応じる中原学長(中央)